

## 限りない未来へはばたいてゆく、豊かな可能性を育んでほしい

(故) 学長 齋藤 秀 晃



これから始まるキャンパスライフに、あなたはどんな夢を描いているでしょうか。平成6年4月に看護学科のみの単科短期大学として発足した本学は、平成9年度には保健婦（士）及び助産婦養成の2つの専攻科の設置を予定しています。まだ芽ばえたばかりの新しい学校。学内は活気と新鮮な気風に満ち、熱気ある教授陣が常にあたたかい指導の手を差し伸べています。

また、この上越市は、文教都市の気品と自然のあふれる環境に恵まれた地です。あなた方はここで、仲間との友情や、将来の仕事に対する誇りを育み、すばらしい人生の糧を得ることでしょう。何事も柔らかな感性で見つめ、たくさんのお出合いを経験してください。そして未来へはばたく大きな夢を築いてほしいと思います。

(1995年度版大学案内から)

## 開学からの6年間の総括

(故) 学長 齋藤 秀 晃

新潟県立看護短期大学は、開学後6年とその歴史は新しいものの、看護学科卒業生388人、専攻科修了生178人を送り出し、就職している卒業生の多くは、県内の病院はもとより県内市町村並びに県外の病院及び市町村などの看護職員として、患者の健康の回復、保持への援助や地域社会における健康教育、健康相談などの重責を果たし、保健医療水準の向上の一翼を担っていることは、「生命の尊厳と価値観に立つ豊かな人間性を育むとともに、正しい判断力と思考力をもって人に接することのできる優れた看護専門家を育成する」ことを目標と掲げ、教授してきた結果と自負しているところである。

新潟県は、慢性的な看護職員不足の解消、人口構造の高齢化や医療内容の高度化、専門化の一層の進展とともに、看護現場において、新しい看護ニーズに対応した指導的役割の果せる資質の高い看護職員の養成のため、平成2年12月に「県立看護系短期大学設立検討委員会」を設置した。平成3年3月、同委員会より提出された「県立看護系短期大学設置基本構想」に基づき、本学は看護学

科(3年課程100人)単科の短期大学として、平成6年4月に開学し、その後、平成9年度からは、地域看護学専攻(45人)及び助産学専攻(15人)からなる専攻科を開設し、現在に至っているところである。

本学の開学に伴い、伝統のある新潟県立中央病院附属看護専門学校と新潟県立公衆衛生看護学校は、それぞれの任務を終え、本学が発展的に継承したことになった。

教育の基本的な考えは、看護の対象は人間であり、生命に深く関わることから、倫理的に自らを深く考え理解するための人間教育や高度化する医療技術に対応していくための、理論と実践能力を養成する、臨床実習教育などの充実に努めている。

また一般県民を対象にした健康と看護に関する知識の普及と県民の看護水準の向上に寄与するため、公開講座の開催、図書館の開放、生涯学習推進機関への支援等大学教育機能を広く地域社会に提供してきたところである。

本報告書は、本学の開学から平成11年度までの6年間の経過と現状、課題を総括し、自己点検・評価を行うため、平成9年12月に自己点検・評価委員会を設置し、慎重な審議を重ね取りまとめたものである。

本学は、地域文化に根ざした看護科学の考究を教育・研究の使命とし、より質の高い看護人材の養育を行うため、平成14年4月開学予定で4年制の看護大学へ発展改組することとしているが、今回の自己点検・評価で得られたことが、将来の教育、研究や大学運営管理に有益なものとなるものと思っている。

また今回の自己点検・評価は、第三者評価システムの導入は行っていないことから、より透明性、客観性の高い大学運営をするためにも、自己点検の継続とともに、学外者による第三者評価システムの導入がこれからの検討課題である。

本学の今後の展望のため、関係各位の忌憚のないご批判、ご助言をお願いしたい。

(2001年3月発行 自己点検・評価報告書—現状と課題— から)

## 平成13年度 戴帽式 式辞

(故)学長 斎藤秀晃

薫風さわやかな季節となった本日ここに、戴帽式を迎えられた2年生108名の皆さん、誠におめでとうございます。

また、お忙しい中、多くの御来賓並びに御家族の皆様から御参列していただき、心温まる御祝辞を賜りますことを、戴帽生と教職員を代表して御礼を申し上げます。

戴帽式は、看護婦・看護師を職業として選んだ、戴帽生の皆さん方の自覚を促す区切りとなる儀式であります。

これは、ナイチンゲールがクリミア戦争の野戦病院に赴いて、夜はローソクに火をともし、傷病